



令和8年7月17日

武蔵台学園だより 1学期末号

東京都立武蔵台学園 校長 中村 大介
〒183-0042 東京都府中市武蔵台 2-8-28
電話(042)576-7491 FAX(042)576-7526

ホームページアドレス <https://musashidai-sh.metro.ed.jp/site/zen/>

「授業力の武蔵台」を目指します

校長 中村 大介

本日、本校と分教室でそれぞれ終業式を実施いたしました。保護者のみなさま、病院関係者のみなさまには、この1学期間のさまざまな御協力に、厚く御礼申し上げます。通知表を見ますと、お子さんそれぞれに分かることやできることが増えており、うれしく思っております。2学期も、個に応じた指導を充実させ、確かな成果を得られるよう取り組んでまいります。9月1日に、みなさんが元気に登校してきてくれることを心から楽しみにお待ちしております。

さて、特別支援学校に通うお子さんの状態は様々ですから、個別に対応していくことが基本となります。しかし、個別の対応に注力することに加え、学習集団を引っ張る授業力の更なる向上に励む必要があると考えております。

そこで、「校長が求める授業」として、「本時の学習の流れ、それぞれの活動の手順が明確にされている」「児童・生徒が自分から取り組んでいる」「児童・生徒が待っている時間が少ない」などの12項目を決め、励行するよう校内に示しています（紙幅の関係で、内容は最終ページにまとめましたので御覧くださいと幸いです）。保護者のみなさまにおかれましても、授業参観の際に、この12の項目の実現状況を御確認くださいと幸いです。

授業は毎日5、6時間あります。よい授業がなされれば、お子さん方の学校生活も格段に楽しくなります。「授業力の武蔵台」を目指す取組に御期待くださいますよう、お願いを申し上げます。

★コラム 中学部【 中学部3年 修学旅行】★

中学部3年生は、7月8日（水）から7月10日（金）の2泊3日で栃木県那須方面へ修学旅行に行ってきました。

初日は、宇都宮で餃子を食べ、ふくべ細工に挑戦しました。そして、2日目はみんなが楽しみにしていた「日光江戸村」に行ってきました。手裏剣を投げたり、忍者のショーを観たりと生徒のみんなは終始大興奮の様子でした。3日目は「千本松牧場」に行き、バター作りを体験しました。自分で作ったバターは格別だったようで、「おいしい！」と嬉しそうに食べていました。あっという間の3日間。思い出に残る修学旅行となりました。



【校長から御連絡】

冒頭で申し上げました「校長が求める授業」について、御説明いたします。

この多様性の時代ですので、教員それぞれが自らの個性を存分に発揮することは大切ですが、一方、武蔵台学園として統一感のある授業を行っていくことも重要であると考えております。

そこで、文部科学省が作成している学習指導要領の解説や、国立特別支援教育総合研究所の研究成果を基に、校長がどのような授業を求めているかを、12の項目により校内に示しています。

- 1 本時の学習の流れ、それぞれの活動の手順が明確にされている
- 2 児童・生徒が自分から取り組んでいる
- 3 児童・生徒が待っている時間が少ない
- 4 児童・生徒が意思を表す場面が多く組み込まれている
- 5 児童・生徒の生活年齢に見合った内容が取り上げられている
- 6 言葉による説明や指示が少ない
- 7 話す言葉は、児童・生徒が理解できる言葉である
- 8 立ち位置の最適化を図っている
- 9 児童・生徒に合わせて賞賛し、望ましい行動を強化している
- 10 直接的な支援（介助）を最低限にとどめようとしている
- 11 児童・生徒ができることは必ずやり切るように指導している
- 12 児童・生徒の誤学習を避けるための配慮を行っている

以下に、それぞれの項目について御説明します。

1 本時の学習の流れ、それぞれの活動の手順が明確にされている

児童・生徒それぞれが理解できるような方法を工夫します。「1、2…」と示すだけでなく、上から下、左から右に活動の流れを示すなど効果的な提示を考えます。また、絵カード、写真カード、文字カードなど児童・生徒一人一人に合わせて示していきます。児童・生徒がいちばん興味を示す大きさを示すことも考慮します。流れを示すカードを見せ続けるのか、一旦引いて、また提示するのも工夫します。

2 児童・生徒が自分から取り組んでいる

児童・生徒の興味・関心を捉えた内容にしていけます。もちろん、学習の中

で、あまり興味・関心のないことにチャレンジしてもら場面もあるでしょう。その場合においても、児童・生徒のモチベーションを高める工夫を行います。例えば、作業学習であったとしても、黙々と作業を続けることのみを追求するのではなく、生徒が達成感を得て、次時に前向きに向かえるような内容にしていきます。

3 児童・生徒が待っている時間が少ない

短時間待つ、順番を守って待つなど、「待つこと」を意図的に学ぶことはむしろ推奨しています。また、友達の様子を見たり応援したりすることも大切にしていきますが、それが当該の児童・生徒の学習課題として適切であることを前提としています。また、教員による段取りの滞り、教材や用具の不足により待ち時間が長くなるような授業は避けることとしています。

4 児童・生徒が意思を表す場面が多く組み込まれている

児童・生徒それぞれの方法で意思を表出できるような場면을積極的に設けるよう工夫していきます。学習の過程で、一方的な教え込みにならないよう、児童・生徒が教員とコミュニケーションを取れるようにしていくことを大切にしていきます。特に、児童・生徒からの発信を大切にしていくことに力点を置いていきます。

5 児童・生徒の生活年齢に見合った内容が取り上げられている

児童・生徒の認知発達の状況と生活年齢の間に徐々に乖離が生じていくのが一般的ですが、そうであったとしても、生活年齢を考慮した対応を徹底することを求めています。その上で、実生活で役立つ知識や技能を身に付けられるようにすることを大切にしています。

6 言葉による説明や指示が少ない

児童・生徒の多くは、耳で聞いて物事を理解したり覚えたり身に付けたりすることより、実際に体や目や指を使って操作して学んでいくことのほうが得意な方が多いです。「説明しましたよ、いいですか」という授業は避けることにしています。また、言葉での指示が多い授業は児童・生徒を受け身にさせますので、見てわかって自分で取り組める場面、時間を多くするよう求めています。

7 話す言葉は、児童・生徒が理解できる言葉である

言葉での説明をすべて否定している訳ではありません。ただし、児童・生徒が理解できる内容の説明になっているのか、また、児童・生徒が一度に言われて理解しきれ分量の説明になっているのかに注意を払うよう求めています。特に前者については、例えばカレンダーの理解ができていない子供に向かって「金曜日だから上履きを持ち帰りましょう」と言うのをやめ、「上履き持ち帰りカード」を帰りの会で示す、あるいは下駄箱のところに「上履き持ち帰りカード」を貼っておくなど、児童・生徒が見て分かって自分から取り組めるように工夫することを求めています。

8 立ち位置の最適化を図っている

教員は児童・生徒にとって学校内での最大の「環境」です。教員が目に入る位置にいることにより、児童・生徒の集中がかえって削がれてしまうことすらあります。そのため、この学習を進めていくために、教員はどこにポジションをとるのが最適なのか、常に考えるよう求めています。

9 児童・生徒に合わせて賞賛し、望ましい行動を増やしている

児童・生徒の好ましい行動を増やしていくには賞賛が一番です。児童・生徒の多くは帰りの会でほめても「何のことだっけ？」になってしまいますから、その場で直ちに賞賛することを徹底するよう求めています。また、高等部段階にあっても、ほめることの重要性は変わりません。生活年齢を踏まえ、さらっと賞賛することを求めています。もちろん、「ほめられる」ことの意味がまだ理解できていない児童・生徒には、意味を分かってもらうべく大げさにほめるよう求めています。

なお、好ましくない行動はその場では無視し、次からそうした行動を生まないような環境調整を考えるようにも求めています。（当然ですが、事故につながるような好ましくない行動は無視しないで止めます。）

10 直接的な支援（介助）を最低限にとどめようとしている

どの行動でも一人でできるようになることを目指していきます。よって、極力教員の支援を減らしていくことを意識しています。定着していないのに支援しないと身に付きませんのでそこは支援していきませんが、どこかで支援を減らしていくことも考えていきます。直接的な介助は、児童・生徒の思考機会を減らします。自分なりに見通しを立て、自分から取り組めることを大切にするよ

う求めています。

もちろん、発作がある児童・生徒、他害がある児童・生徒には積極的に直悦的な支援を行っていきます。

11 児童・生徒ができることは必ずやり切るように指導している

できることは必ずやり切れるようにと求めています。また、できることであっても、必要に応じて賞賛することも忘れないよう意識していきます。

できるようになると、次第にいい意味で「いい加減」になるのが人の常ですので、そうなったら、できることをより高いレベルでやってもらうよう求めています。例えばですが、歯磨き後のコップを洗う、鞆を棚にきれいに置くなど、細かいことまでしっかりやってもらうことを大切にしています。

12 児童・生徒の誤学習を避けるための配慮を行っている

活動を提示するからには必ずやり切れるようにしていきます。児童・生徒がパニックになったからやめる、という対応が続くと、次々と騒ぎが起こるようになります。

逆に言えば、課題の選択はそれほど大切であり、児童・生徒の興味・関心やこれまでの学習の状況を踏まえた課題の提示を工夫していきます。また、ダメなものはダメと、さらっとかつ毅然と示すことも大切にしています。